

2026 年 7 月 31 日 全 7 頁

Indicators Update

2026 年 6 月 鉱工業生産

半導体製造装置の増産などが押し上げ要因、3 カ月連続で上昇

経済調査部 エコノミスト ビリング 安奈

[要約]

- 2026 年 6 月の生産指数は前月比+1.3%と、コンセンサス（同+1.0%、Bloomberg 調査）を上回り、3 カ月連続で上昇した。内訳を見ると、生産用機械工業や電気・情報通信機械工業などの増産が押し上げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は横ばい圏で推移するとみている。AI 関連需要などが国内生産の下支え要因となろう。他方で、中東情勢をめぐる不確実性は依然として残っており、原材料の価格上昇や供給不足、輸出停滞を通じた生産下振れリスクには引き続き注意が必要だ。
- 2026 年 8 月 7 日に公表予定の 6 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差+0.0pt の 116.5、一致 CI が同+0.3pt の 118.2 と予想する。この予測値に基づくと、6 月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

図表 1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2025年		2026年							
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
鉱工業生産	▲2.0	+0.6	+4.3	▲2.0	▲0.4	+0.5	+0.1	+1.3		
コンセンサス								+1.0		
DIR予想								+1.6		
生産予測調査									+1.2	+4.5
補正值(最頻値)									▲0.7	
出荷	▲1.0	▲1.1	+3.8	▲1.5	▲0.9	+1.3	+0.5	▲0.4		
在庫	▲1.9	+0.6	▲0.8	+0.3	▲1.8	▲0.3	▲1.1	+2.3		
在庫率	▲0.1	+1.3	▲4.6	+2.0	▲0.7	▲0.9	+0.7	+2.3		

(注) コンセンサスは Bloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】生産用機械工業などを中心に幅広い業種で増産、3 カ月連続で上昇

2026 年 6 月の生産指数は前月比+1.3%と、コンセンサス（同+1.0%、Bloomberg 調査）を上回り、3 カ月連続で上昇した。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、15 業種中 13 業種と幅広い業種が前月から上昇した。生産用機械工業（前月比+7.6%）は2 カ月ぶりに上昇した。品目別では、半導体製造装置（同+11.1%）や装輪式トラクタ（同+61.3%）などが増産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」によると、生産用機械工業は輸出向けで同+6.7%だった。また、電気・情報通信機械工業（同+5.8%）も2 カ月ぶりに上昇した。品目別では、開閉制御装置（同+17.2%）やノート型パソコン（同+66.4%）などが増産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」によると、電気・情報通信機械工業は国内向けで同+3.0%だった。

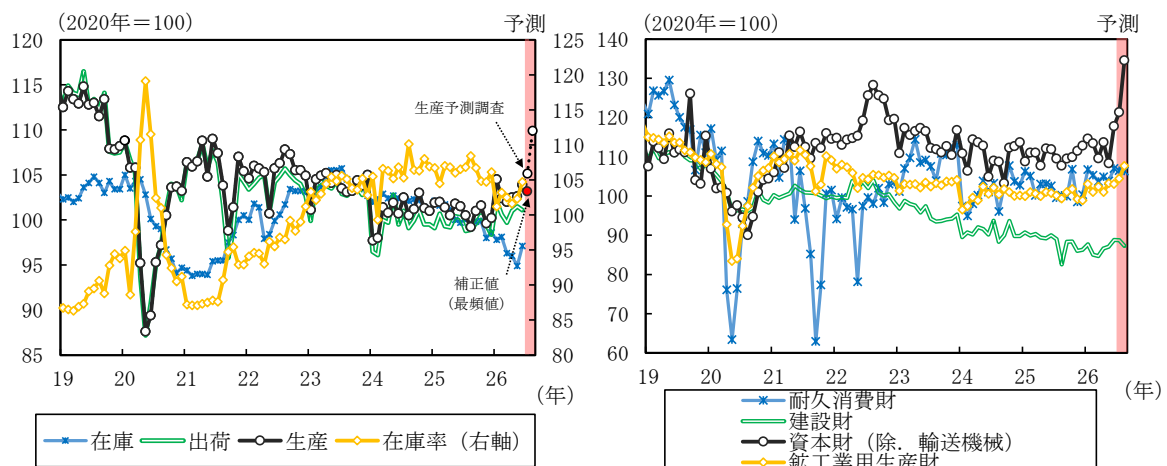
他方で、電子部品・デバイス工業（前月比▲6.3%）と鉄鋼・非鉄金属工業（同▲0.4%）の2 業種は前月から低下した。電子部品・デバイス工業ではモス型 IC（メモリ）（同▲54.3%）などが、鉄鋼・非鉄金属工業ではダイカスト（同▲6.0%）などが減産となった。

財別では、非耐久消費財（前月比▲0.2%）は低下した一方、資本財（除、輸送機械）（同+8.8%）と耐久消費財（同+3.1%）、建設財（同+2.0%）は上昇した。生産財（同+0.0%）は横ばいだった。

【出荷・在庫】出荷指数は自動車工業などを中心に3 カ月ぶりに低下

2026 年 6 月の出荷指数は前月比▲0.4%と 3 カ月ぶりに低下した。業種別では、自動車工業（同▲4.4%）や輸送用機械工業（除、自動車工業）（同▲20.3%）など 15 業種中 7 業種が低下した。財別に見ると、資本財（除、輸送機械）と生産財は上昇した一方、耐久消費財と非耐久消費財、建設財は低下した。在庫指数は同+2.3%、在庫率指数は同+2.3%だった。

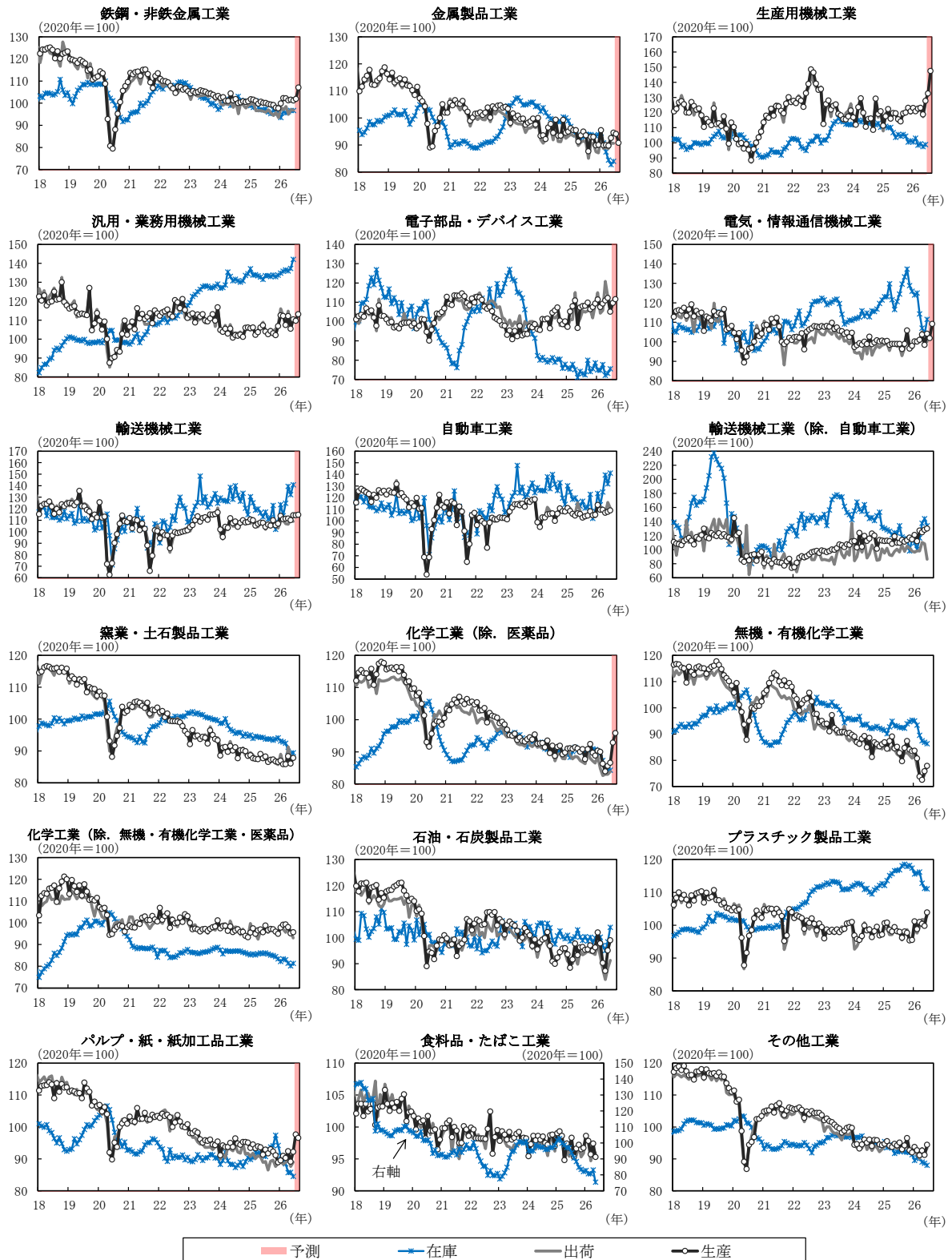
図表 2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



（注）生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。

（出所）経済産業省統計より大和総研作成

図表 3 : 業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は横ばい圏で推移する見込み

先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。AI 関連需要などが国内生産の下支え要因となろう。他方、中東情勢をめぐる不確実性は依然として残っており、原材料の価格上昇や供給不足、当該地域向け輸出の停滞が長期化することで、生産が下振れするリスクには引き続き注意が必要だ。

AI 関連財の拡大は 2024 年から日本国内の生産を押し上げてきており、今後も下支え要因となる見込みである¹。世界半導体市場統計（WSTS）の 2026 年春季半導体市場予測によれば、半導体市場は 2026 年に前年比+89.9%と急拡大した後、2027 年も同+26.6%の高い伸びが見込まれている²。

原油や石油製品の代替調達が進んでいるものの、供給をめぐる不安は残る。供給不足に伴う買いだめ等が発生すれば価格は一段と上昇し、原材料不足を通じて生産の減少につながる可能性がある³。本稿執筆時点では米国とイランの間で攻撃停止と再開が繰り返され⁴、今後も引き続き注意が必要だ。また、中東向け輸出の停滞を通じた減産のリスクもある。物流の混乱は中東向け輸出にも影響する。中東情勢の悪化前はホルムズ海峡周辺国への財輸出の半分を自動車占めており、日本の自動車産業にとってホルムズ海峡の通航が制限される影響は大きい⁵。

なお、7 月 28 日に熊本県で最大震度 7 の大地震が発生した。これを受けて、現時点では一部工場の操業停止が報じられており⁶、不確実性は高い。ただし、2016 年の熊本地震では全国生産への影響は限定的だったとの評価もあり⁷、今後の状況を見極めたい。

製造工業生産予測調査では、7 月の生産指数は前月比+1.2%と増産が見込まれる。業種別では 11 業種中 6 業種が上昇する見通しだ。化学工業（同+7.2%）や生産用機械工業（同+3.8%）などの上昇が見込まれる。ただし、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）⁸では、7 月は同▲0.7%と低下が見込まれる。

8 月の生産指数は前月比+4.5%となる見込みだ。業種別では 11 業種中 7 業種が上昇する見通しだ。生産用機械工業（同+11.2%）や電気・情報通信機械工業（同+7.2%）などの増産が見込まれる。

¹ 詳細は、神田慶司・秋元虹輝・菊池慈陽・横田凱「[日本経済見通し：2026 年 6 月](#)」（大和総研レポート、2026 年 6 月 23 日）を参照。

² WSTS「[Global Semiconductor Market Surges Beyond \\$1.5T 2026](#)」（2026 年 6 月 2 日）

³ 詳細は、畑中宏仁「[ナフサ問題がもたらす日本経済の不安要素](#)」（大和総研レポート、2026 年 6 月 15 日）を参照。

⁴ 「[米軍、イランに『報復攻撃』トランプ氏の思惑外れ戦闘再開](#)」（日本経済新聞 電子版、2026 年 7 月 30 日）

⁵ 詳細は、畑中宏仁「[中東向け乗用車輸出の激減は日本経済のリスクとなるか](#)」（大和総研レポート、2026 年 6 月 19 日）を参照。

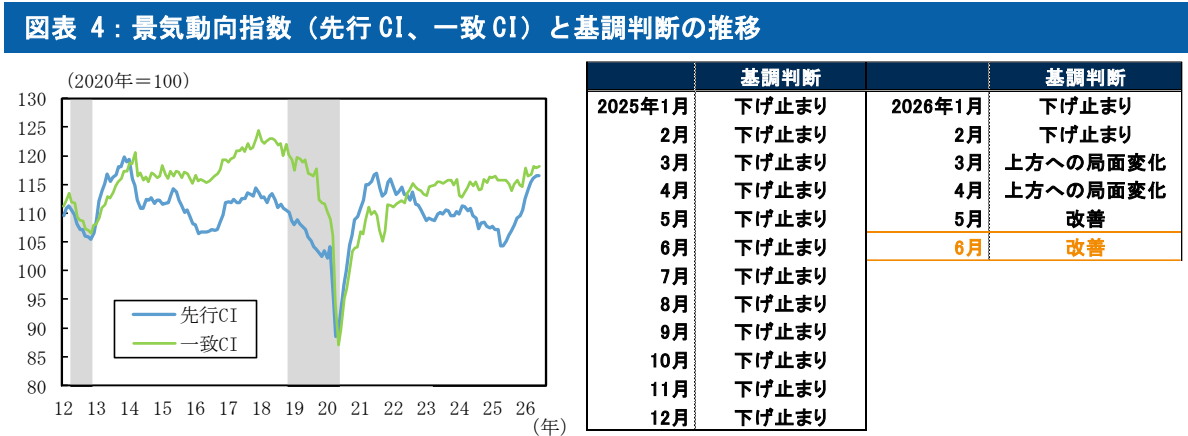
⁶ 「[地震影響一覧](#)」（日本経済新聞 電子版、2026 年 7 月 29 日配信、7 月 31 日更新・閲覧）

⁷ 詳細は、久後翔太郎・小林俊介「[4 月鉱工業生産](#)」（大和総研レポート、2016 年 5 月 31 日）を参照。

⁸ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

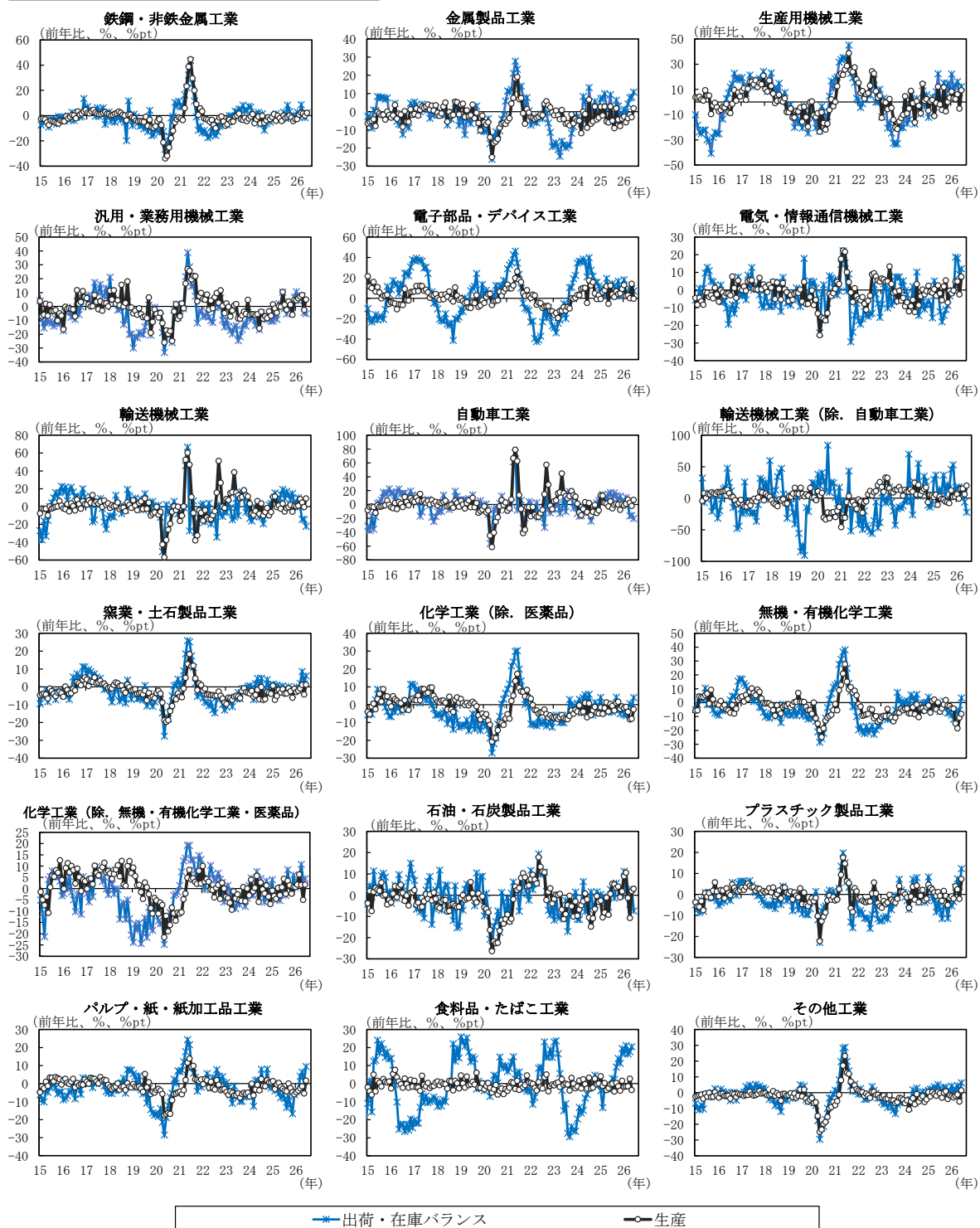
【26 年 6 月景気動向指数】先行 CI は横ばいで推移、一致 CI は上昇を見込む

鉱工業指数の結果を受けて、2026 年 8 月 7 日に公表予定の 6 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差+0.0pt の 116.5、一致 CI が同+0.3pt の 118.2 と予想する（図表 4）。先行 CI では構成指標のうち、中小企業売上げ見通し DI や新規求人数（除学卒）などが前月から改善した一方、日経商品指数（42 種総合）や鉱工業用生産財在庫率指数（逆サイクル）などが悪化した。一致 CI では構成指標のうち、商業販売額（卸売業、前年同月比）や投資財出荷指数（除輸送機械）、生産指数（鉱工業）などが改善した。この予測値に基づくと、2026 年 6 月の基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。



（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。2026 年 6 月の基調判断は大和総研予想。
（出所）内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



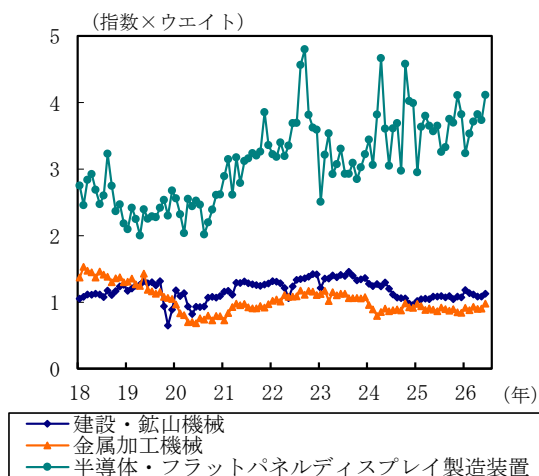
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

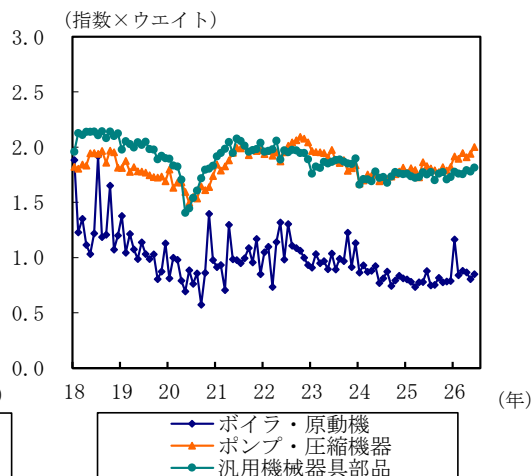
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

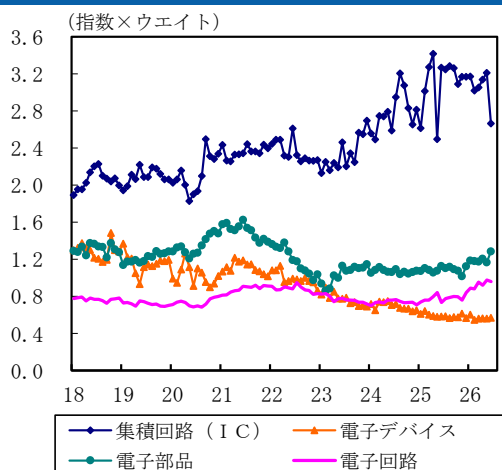
生産用機械



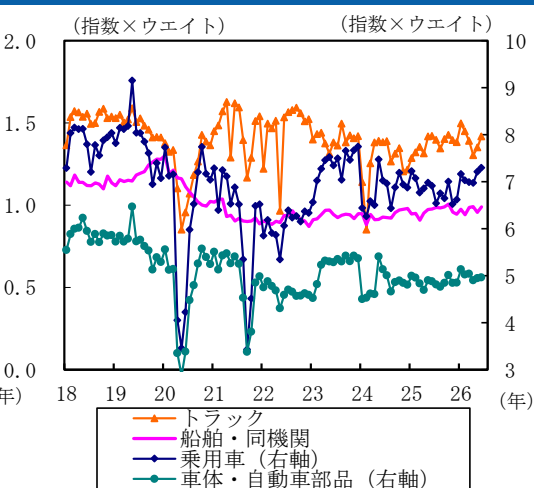
汎用・業務用機械



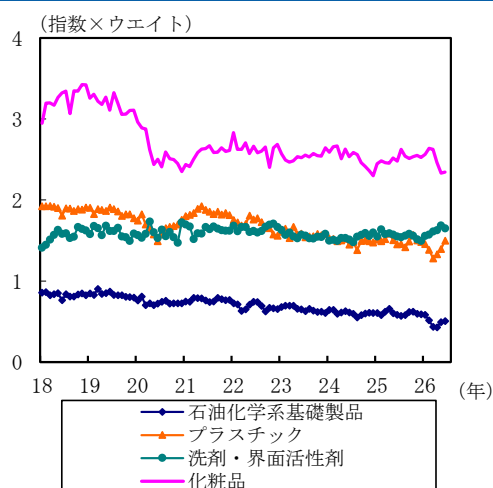
電子部品・デバイス



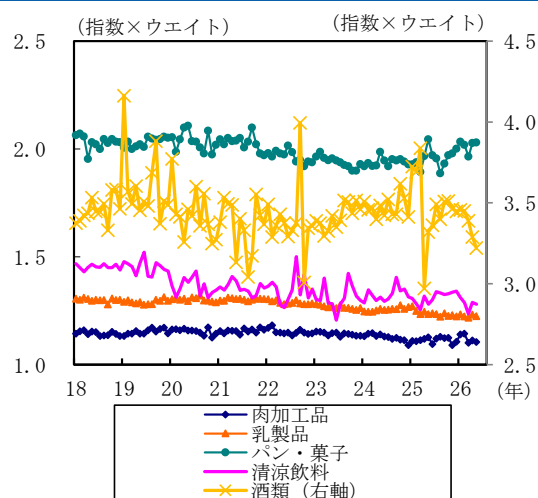
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成